

2013年度上半期



JICA研修コースの実績紹介

コース名 : 「廃棄物管理技術A」



(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

2013年11月25日

1. 研修コースの内容

1)コースリーダー: 原口 清史

2)コース名: 和文:「廃棄物管理技術A」
英文: Waste Management Technique A

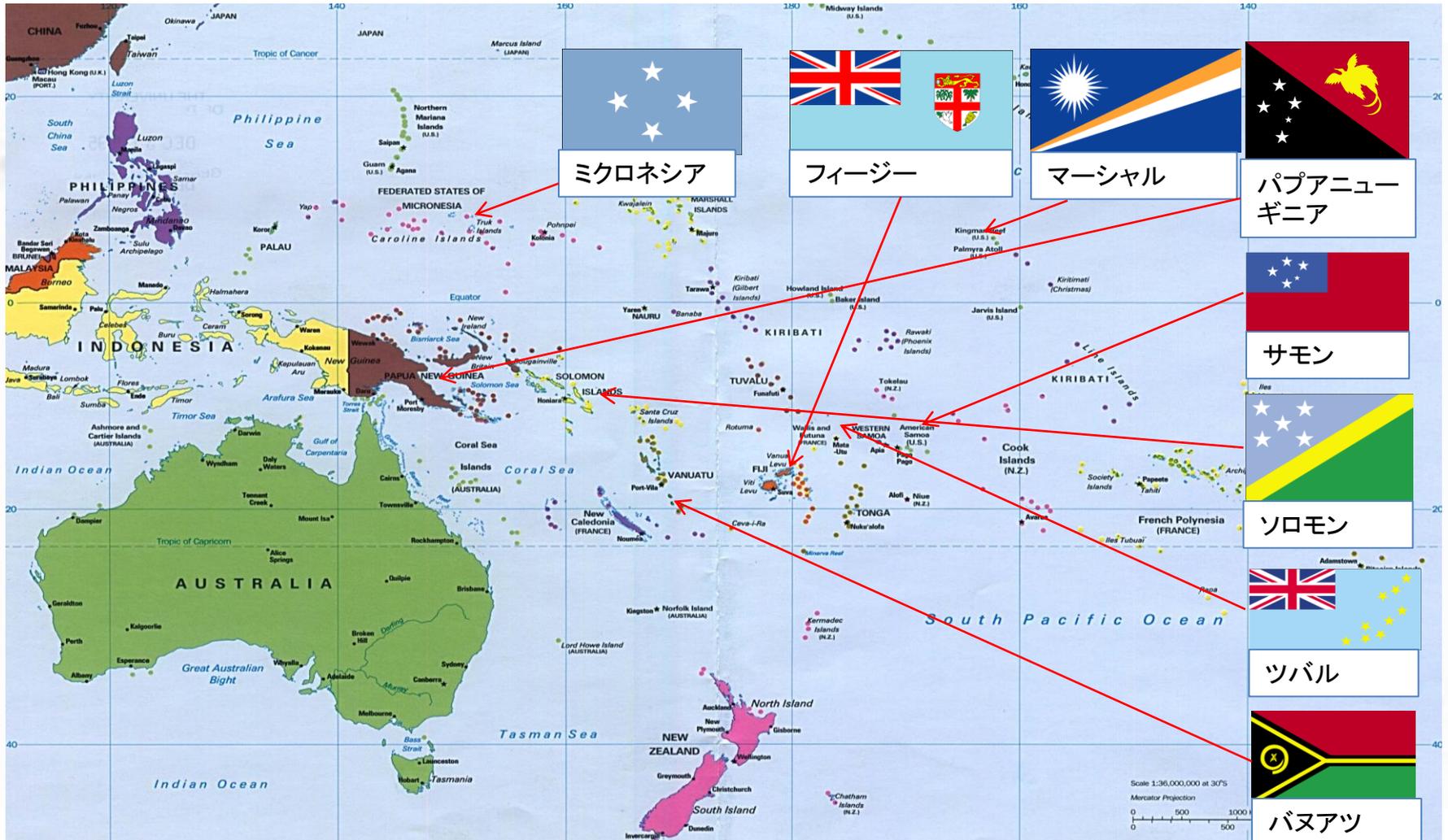
3)類型: 課題解決促進型

4)研修受け入期間: 2013/7/10 ~ 2013/9/6

5)参加研修員: 8ヶ国 10名

【参加研修員の国名と位置】

参加研修員 7ヶ国 8名



2. 研修コースのデザインと目標

2-1.現状

島嶼国においては、①人口が少ない ②国土が小さく散在 ③海に囲まれている ④脆弱な財政基盤、等、地政学的財政課題が根底にあり、その存立の基盤は先進国や国際機関からの援助や支援に頼っている。

2-2.研修デザイン

- ①島嶼国の実情に適した方策
- ②コンポストに比較的に重点をおいたカリキュラムの設定
- ③自治体(北九州市)での取り組みを行政、市民、企業など様々な立場から実施している事例を紹介
- ④「適正処理」と「ごみは資源」との考えに沿ったストーリー性

2-3. 目標

上位案件
目標

自国の廃棄物処理行政の基本戦略を策定できる。
①住民意識の改革 ②最終処分場の建設 ③資源循環

自国での検討～実施



日本での研修



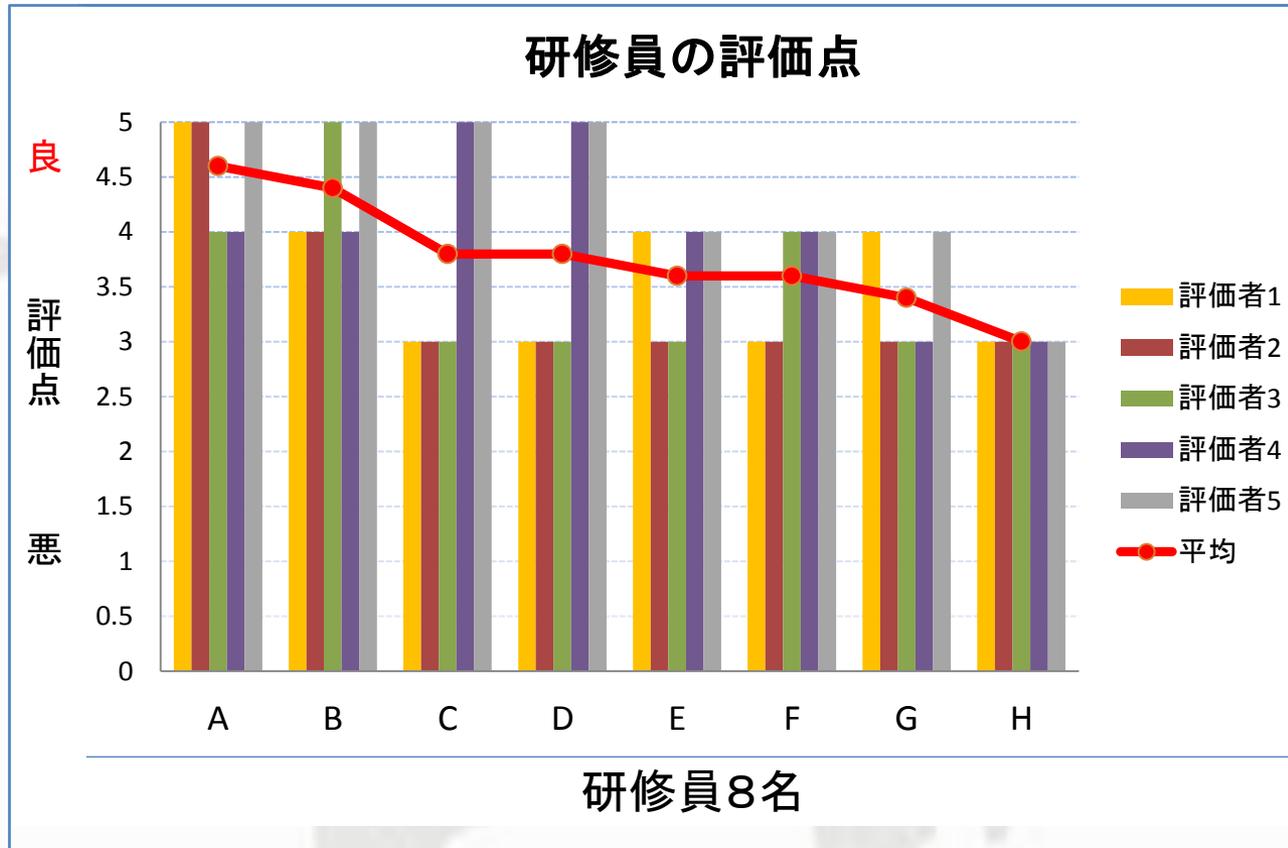
単元目標① 廃棄物管理システム構築のプロセスを説明できる。

単元目標② 廃棄物管理各家庭の技術・手法を理解する。

単元目標③ 最終処分場の技術・手法を理解する。

単元目標④ 環境教育・啓発の重要性と具体的手法を理解する。

3. 達成度(評価)



- ◆達成度の評価指数 (5つの観点)
- 1) テーマ選定の妥当性
- 2) 自国の現状を踏まえた実現性
- 3) 研修成果の活用についての着眼点
- 4) 資料のわかりやすさ
- 5) 発表態度
- ◆5つの観点からカリキュラム講師(評価者)より5点満点で評価。

研修員によって語学力や能力等で評価にはバラツキも見られたが、総体的に研修員の理解度は良く、帰国後の活躍が大いに期待される。

4. 研修員との評価会

評価会での研修員みなさんのコメント(代表例)を紹介します。

原口コースリーダー:

2ヶ月間の研修で廃棄物管理習得の成果が見られました。研修員諸氏の帰国後の活躍に期待しています。

研修員(1):

研修で学んだ科目は、廃棄物の収集・運搬・処理など自国で活用できるものが多々あり有意義であった。

研修員(2):

科目内容は有益だった。今後とも各国へ継続的な情報提供をお願いしたい。



研修員(3):

自分にとって廃棄物管理は新しいトピックだったので非常に勉強になった。講義・研修旅行・視察から多くを学ぶことができた。

研修員(4):

研修で様々なことを学べた。研修期間は適正だったし、日本の生活についても問題はなく過ごせた。

研修員(5):

研修科目は全て有益であった。日本の技術は先進的であったが、人材育成などについても多く学べることができたので自国で着実に適用していきたい。

4. 研修員の日本人への印象

研修員のみなさんへ日本人の印象を3つ挙げて頂きました。

研修員(1):

- ・礼儀正しく文化や伝統が豊か
- ・もてなしの心
- ・日本人はほとんど英語を話さないが、ものを尋ねるときはできるだけ答えようとしてくれる。

研修員(2):

- ・時間厳守
- ・言葉の問題があっても他者を助けようとする。
- ・社会や経済活動に対する人々の協力。

研修員(3):

- ・敬意
- ・食事
- ・交通

研修員(4):

- ・親切心
- ・敬意
- ・ハイテクなプロジェクト

研修員(5):

- ・(良い)振る舞い
- ・謙虚
- ・礼儀正しい



研修員(6):

- ・敬意
- ・忠誠心
- ・正直さ

研修員(7):

- ・時間厳守
- ・文化がとても興味深い。
- ・何か詳しい情報を聞いた時は、いつでも助けようとしてくれる。

6. 研修アルバム

